

ただ、赤間参事のほうは、その置広での資料に基づいて申し上げたということなのですが、実は、理事である私は納得してないということでございますので、そんなことでは、行き当たりばったりでは駄目だろうと。

ですから、し尿処理も、実は米沢のクリーンセンターと南陽のクリーンセンターと長井のクリーンセンターって、長井がもう老朽化したから米沢と南陽を使わせてくれってなったときにいろいろ出たんですよ。じゃあ建設費負担しろとか下水道を負担、それはないでしょうと。今、今度は米沢に南陽も1本ですると。要は置広も、我々西置賜が協力しているからいいんですが、本当ね、もうばらばらですよ。

とにかくそういったことも含めて、この処理施設はこれからいろんな課題が出てまいりますし、また、白鷹町のタイプは溶かすみたいだね、焼く、焼却より、そういう感じだそうですが、ジビエとしても使いたいということもあるんで、その辺なども検討しながらいろいろ考えていきたいと考えております。

○鈴木富美子議長 8番、竹田陽一議員。

○8番 竹田陽一議員 市長からは力強いお言葉、リーダーシップをお聞きして、大変ありがとうございます。ぜひイノシシが適正処理されるように、なおかつ捕獲者の負担にならないように、よろしく願いをしたいと思っております。

以上で質問を終わります。

○鈴木富美子議長 ここで暫時休憩いたします。

再開は、午後3時10分といたします。

午後 2時51分 休憩

午後 3時10分 再開

○鈴木富美子議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

鈴木一則議員の質問

○鈴木富美子議長 順位5番、議席番号6番、鈴木一則議員。

(6番鈴木一則議員登壇)

○6番 鈴木一則議員 政新長井の鈴木一則です。今日最後の質問となります。よろしく御答弁お願いいたします。

5月は、天候もまずまずで、市内の田植も順調に終わられたようで、田んぼの水張りで、一転寒さも感じられます。4月下旬から5月の連休時に立て続けに発生した高島町と南陽市の大規模林野火災は、鎮火まで数日かかる大変な事態となりました。連日の消火活動では、地上からは置賜広域消防署と多くの消防団員による必死の消火活動、空からはヘリによる消火活動という連日の対応でありました。令和3年4月に発生した長井市の林野火災での消火活動の御苦労をお聞きしておりましたので、御尽力いただいた皆さんに感謝しかありません。

米沢市へ行く途中、茶色く焼けた2か所の山の状況が見えますが、その範囲の広いことに驚きます。

高島町では、周辺地域の不審火が4月から10回も発生しているということで、専門家によると、日本の林野火災の原因は、ほぼ人為的なものということです。個人の財産でもあり、景観や環境は市民の財産でありますので、不注意は許されません。

私の質問は3点です。新規の公共施設整備も一段落したところですので、市民の日々の生活の場や将来に影響する課題についてお伺いをいたします。

初めに、あやめ公園再整備と文化的景観整備

活用計画についてお伺いをいたします。

あやめ公園の現況や課題を明確にした上で、希少な長井古種をはじめとするアヤメの育成・保存と観光のまちづくりの視点から、あやめ公園の再整備の方向性を定めることを目的に、令和3年3月にあやめ公園再整備基本構想が策定されましたが、その後の基本計画、実施計画の検討はどうでしょうか。

施政方針では、文化的景観整備活用計画に基づき、区域内の重要な構成要素への修繕や修景整備が進められる予定であり、また、令和7年度から宮・小桜街区の整備が進められる計画との説明もありました。私は、この2つの計画は関連して、一体的な考えの中で整備を行うべきと考えますので、以下、質問をいたします。

産業参事に、1番、あやめ公園再整備計画基本構想の策定以降、整備に向けた検討が進んでいるのか、また、今後の整備方針と進め方について。

2つ目、「くるんと」の完成により通年の子供の遊び場が確保されたので、構想にあるあやめ公園の整備方針も再検討されるべきではないかについてお伺いをいたします。

個人的には市民の宝であり、アヤメの花を守り、見る風情を大切にしたい公園に特化すべきと思います。今の季節は長井市の観光で重要な花、白ツツジ、アヤメの時期です。今年の白ツツジは、少雪であったこともあり、5月18日の黒獅子まつりで花はほぼ終了となりました。あやめは6月10日から7月7日までの予定で開催されます。期間中の週末は、ながい黒獅子の里案内人やチームアルク長井の皆さんによるまち歩きが実施され、多くの観光客にまちなかを御案内いただいています。まち歩きの紹介箇所は点とすると、そこにたどり着くまでの道筋は面であり、重要な長井市の観光要素と考えます。十日町、新町、横町など、周辺のまちの道や家並みの風情も公園のにぎわいに付随した大切な要因

ではないでしょうか。

このようなことから、観光交流担当課長に3つ目として、観光事業で実施しているまち歩きでは、公園、周辺の町並みが重要な地域要素となる。文化的景観整備活用計画の整備での整備箇所と事業内容、整備時期についてお伺いをいたします。

平成25年の第1期の観光振興計画から11年になります。当時は外部から誘客するための観光が目的でしたが、今はSNSのInstagramの映える、それからパワースポット、縁起のよいところなどに人が集まるという、時代とともに変わる観光の価値に対応することが重要と考えます。

公園や道路などの維持管理は業務委託している現状ですが、例えば、白つつじまつりの時期にタスから白ツツジが見えなくなったねとか、老木となった最上川の桜はどうなるのかな、道の駅から旧長井小学校第一校舎があまり見えないなどの声をいただきます。木々が大きくなり密集したり、老木になったり、まちの中の見どころもよさが失われることのないようにすべきと考えます。

市長に、整備された景観が維持できてない状況が目立つ。公園をはじめ、まちなかの景観を維持、コーディネートする担当があるべきではないかについてお伺いをいたします。

令和4年12月議会において、文教の杜の第6期指定管理に向けた基本方針についての私の質問に対して、市長は、あやめ公園は、点ではなく、宮・小桜街区の中にあやめ公園というイメージで整備する。あら町、つつじ公園も同様な考えで行っていくと答弁されておりますので、御検討をお願いいたします。

2点目の市内高校の進学者の定員割れの改善を図るにはについてお伺いをいたします。

この問題は、過去に2回取り上げています。現在の県立高校再編整備計画が本年度までとな

っており、令和7年度以降の地域計画が既に検討が始まっています。その初会合では、2024年から10年間で中学卒業生が2,000人減少するというショッキングな報告もなされたようです。改善が見られない長井・西置賜地域内の進学状況は、今後の再編計画に影響が避けられません。今後の取組についてお伺いをいたします。

初めに、今年の卒業生の公立高校進学状況の状況を自分なりに計算すると、卒業生は約8,900人、そのうち高校に進んだと思われる率が約65%、残り35%が県内公立以外の学校や就職等となるようです。そこで質問いたします。

1つ目、私立高校への進学の偏重が進んでいると感じる。私立専願の生徒が増えているのではないか。長井南・北中学校及び西置賜管内の中学校の市内高校の進学動向について、学校教育課長にお伺いをいたします。

長井高校の志願者は、今年79.5%、去年は84.5%です。長井工業は、内定者を含めた場合、3科合計、今年41.6%、去年43.3%でした。米沢市より東・西置賜地区の定員割れの度合いが進んでいるように思います。さきに述べた県全体の志願者と公立学校の定員数を比べると、約15%以上定員数が多い状況ですので、再編をせざるを得ない状況は変わらないと思います。

市内高校の定員割れ問題にはいろいろ取り組んでいただいています。長井の未来を育む少年会議の事前の市長の講話や長井工業高校の成果発表会の両中の生徒の広聴の実施などです。

また、高校との連携を図る検討会は開催されているか、どのようなことが議論されているのでしょうか。

教育長に2つ目として、定員割れが続く市内高校の進学率向上への対策を教育委員会、市もいろいろ取り組んでいるが、進学者の増加は見られない要因は何か。

3つ目、昨年末、県公立高校入試の方法改善検討委員会は、前期・後期試験導入の報告を行

い、県教育委員会は2026年度入試から前期・後期、選抜を原則全校で実施することに決定したが、定員割れ是正に期待ができるのかについてお伺いをいたします。

以前この質問で、市長からは、高校の熱意というか、県立の高校という壁というお話もあつたように思います。長井工業高校の成果発表会の市民、企業、中学生への公開、ビジネスチャレンジコンテストは地域の中学生の進路決定にも大変よい取組だと思えます。長井高校は、今年赴任される校長が久しぶりに長井高校出身であり、地域の高校がなす役割などを理解いただき、連携を図られることを期待したいです。

人口減少に付随した高校の定員割れの対策として、全国の事例には、地域内企業と行政の協力で高校に積極的に関わることで好結果をもたらした事例もあるようです。高校自体も進学予定の中学生にオープンスクールを実施していますが、十分伝わっているのかも疑問です。

市長には、高校からの中学生のアピールに問題は無いのか、人口減少の中、全国で様々行政が関わって、工夫してる事例も多々ある。高校への協力や自治体が積極的に関わる必要性を感じるがどうかについてお伺いをいたします。

3つ目の大きな項目です。中学校部活動の地域移行の実施状況と今後についてです。

この件については、昨年3月・6月議会でも取り上げました。長井市では令和6年度から部活動の地域移行が始まり、土日の生徒の部活動を地域スポーツ団体が受皿となって進めることが実際に始まりました。先頃の文教常任委員会協議会の資料に今年度の部活動等への加入状況の資料を提供いただきましたので、結果をどう捉えたか、また教育委員会の今後の部活動への考え方についてお聞きします。

今回の制度では、部活動の任意加入と校外地域クラブ選択がポイントと考えます。この部活動改革実施について、生徒、保護者はどう捉え

たのでしょうか。

私たちの団体でも入団の相談に際し、変化を感じましたので、1つ目、令和6年度の部活動等への加入状況結果を学校としてどう捉えたか。また、学校部活動の加入者と校外地域クラブ加入者の意識の違いや状況は。両方加入の実態は同一種目なのか、別々の種目なのかについて、学校教育課長にお伺いをいたします。

加入結果の資料から、地域クラブの選択者が意外と多かったと感じます。生徒の選択肢が増えれば、学校内で済んでいたことが夜間や土日にその活動場所が増えることで、対応は保護者になります。これは以前から危惧されていた課題です。

教育長に、令和8年度には中学校部活動土日活動を行わない方針となっていますので、地域クラブの加入実態から生徒の選択肢が増える一方、土日の保護者の負担も増えるが、その負担軽減策の考えはについてお伺いをいたします。

このたび配付された教育振興計画からお伺いをいたします。私は、学校教育とともにスポーツ、文化も教育振興の骨格をなすものと考えていますが、今回の振興計画では市当局所管で作成となっていますので、考え方が変わるのでしょうか。

3つ目として、第3期教育振興計画からスポーツ分野、文化・文化財分野が除かれ、スポーツ分野は健康スポーツ課、文化・文化財分野が観光文化交流課において個別計画を策定するとされています。計画の策定状況について、スポーツ分野を健康スポーツ課長に、文化・文化財分野を観光文化交流課長にお伺いをいたします。

昨年、部活動の地域移行の検討を学校教育課が所管し、進めていただきました。このたびの補正の地域スポーツクラブ活動体制整備事業は、昨年の部活動環境整備実証事業と同等の内容とお聞きしていますが、昨年の委託先はスポーツ少年団本部、今回はスポーツ協会となっています。

この委託先への期待する趣旨は何でしょうか。受皿となる地域クラブの充実・整備という目的とすれば、スポーツ、文化の種目や林営の専門的に取り組むきっかけだった中学校の部活動の役割はなくなっていくのでしょうか。

教育長に、昨年の地域スポーツクラブ移行への実証事業とこのたびの補正予算計上の地域スポーツクラブ活動体制整備事業の委託先は学校教育から離れていく印象を持つ、中学校の部活動は今後何を目的に行い、どういう位置づけとなるかについてお伺いをいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木一則議員からは、大きく3項目にわたりまして様々な御提言、御質問いただいております。できるだけ簡潔に答弁させていただきたいと思いますが、私のほうには2点ほどございまして、まず1点目のあやめ公園再整備と文化的景観整備活用計画についてという事で、整備された景観が維持できていない状況が目立つと、公園をはじめ、まちなかの景観を維持・コーディネートする担当があるべきではないかというような御提言でございます。

まず、公園をはじめ、まちなかの景観を維持・コーディネートする担当があるべきでないかという点については、そのとおりだと思っております。

現在は、御承知のとおり、例えば、観光のほうでしたら観光交流の担当課のほうで、あるいはあやめ公園そのものは作業員でとか、あるいはつつじ公園とか、そういったところについても一部建設課で、例えば、公園内の河川とか上下水道課でとかっていろいろありますけれども、景観ということの視点から見ますと、やはりばらばらなものですから、ここはコーディネートするような担当があったほうがいいとは思いますが、なかなかこれは難しいなど。

むしろ、できれば外部の、例えば、ランドスケープなどに明るい、以前の地域おこし協力隊の工藤さんみたいな方に年間でコーディネートをお願いして、それを各担当のほうに伝えていただくとか、そういったことなどがあるのかなと。あとは建設課の中に公共施設整備の担当の部署がありますので、そういったところで担っていただくという手もあるのかなと思います。

現在、市内の維持管理については、街路をはじめとする市道、準用河川、最上川河川緑地公園、小出ふれあい公園、寺東中央公園などは建設課で担い、そのほかの都市公園については観光文化交流課や子育て推進課等で行っているところがございます。長井市の場合、代表的な都市公園のあやめ公園と白つつじ公園は、花の祭りを行っている関係上、観光部門で管理しており、加えて、さくらまつりの関係から最上川堤防千本桜も観光部門で行っております。

具体的な管理方法ですが、あやめ公園については公園管理員を中心に維持しています。ただし、この公園管理員は4月から11月いっぱいの雇用となっており、主にアヤメ育成管理で、あやめ公園の草刈り等の環境整備とか桜並木や公園樹木の防除に加えて祭りの設営・撤去を行っているため、白つつじ公園の管理については民間に維持・作業委託をしております。

長井市の花観光は、年度当初の4月からすぐ始まり、7月まででございますが、小規模の修繕は、その都度観光部門で発注しながら祭りをしております。その後はアヤメ苗の植え替えがありますので、公園の管理は現状の維持が精いっぱいというところですよ。

繰り返しになりますけど、鈴木一則議員からの提案につきましては、現状、人員の問題もあり、観光部門と建設部門との連携で解決するしかない状況ではございますが、維持管理だけで景観の改善にはならない部分もありますし、公園の再整備の手法も絡めながら対応していかな

ければならないと考えており、この辺のところについては、ちょっと協議をして検討してまいりたいと思います。

なお、あやめ公園の整備については、やはり今回は、ウォークブルも含めて宮・小桜街区をまず第1に、それから、その後小出のあら町、それから白つつじ公園のところについても、そちらを中心に、サブ的に手をかけたいと思っておりますが、あやめ公園はどこまでやったらいいのかというところが難しく、なおかつ市民の皆様とか有識者の皆様であやめ公園の再整備の構想なども練っていただきましたけれども、ちょっとあやめ公園だけしか考えてないんですね。その中でいろいろな提案について、まとめについては、担当課のほうで頑張ってください、いいものだと思いますが、あれで整備したらなかなか難しいだろうと。

したがって、今後、本当に造る場合は、もう少し専門家入れて、あとそういった委員も含めて、あと財政的な問題ですね、財源的な問題も含めて、箱物は果たして要るのかどうか、あと今のあやめ公園の在り方でいいのかどうか。

もう私は全く違う考え方なんですね。例えば、あやめサミットなどでいろいろ行って私を感じるのには、旧佐原、今の香取のような水生植物公園みたいなね、ろ舟みたいので乗ってずっと見て回るような、それが基本コースと。非常に水を大切に、なおかつ花の見せ方がうまいと。

今、あやめ公園は、我々は種類が多いと、原種を全国に先駆けてたくさん持ってるということですから、それを中心にしていくと、今の形とあんま変わらないんですよ。

あとは、總宮神社とそれから十日町とか文教の杜をどうつなぐかというあたりが公園の構想にはもちろん入ってないので、したがって、それらについてはもう一回コーディネートしなきゃいけないと。現在、建設課のほうで第4期の都市再生整備計画、これは都市構造再編集支

援事業で5割補助でやっていきたいということなんですが、その中にあやめ公園をどうするか、今これから検討だと思っております。

なお、議員も感じてると思うんですが、長井のまちは外から入ってくると、決してきれいじゃないんですよ。道路沿いがもうめちゃくちゃなんです。ですから、そこを何とかしたいんですが、まちなかのあるエリアだけでも景観に優れて、インスタ映えするような、そういったことも視野に入れるというのは非常に重要だと思っております。もう少し担当の観光のほうとかやまがたアルカディア観光局も含めて、観光協会も含めて、あと建設課とか、腹を割って話して、どこまでやるかというのが課題かなと。

なお、コーディネートについては、これは担当課とか、あるいは外部に頼むとか、こういったところは検討だと思っております。ありがとうございました。

2点目でございますが、市内高校の進学者の定員割れの改善を図るにはということで、私へは、高校からの中学生のアピールに問題はないかと、自治体が積極的に関わる必要性を感じるかどうかということで、これは議員おっしゃるとおりで、非常に長井高校が、その何というんでしょうかね、人気がないという言い方じゃないんでしょうけども、生徒の集まりがもう限られてきてると。

これは、長井工業高校はもっとさらにひどくて、もう長井市と白鷹町、飯豊町だけですよね。南陽市から1人、2人、小国町はゼロ、川西町も1人、2人。米沢市、高畠町ゼロ。これはもう10年前だったら、まだまだ南陽市から何十人も、小国町も数名来てましたし、川西町からも何十人来てたと、これが来ないと。

これが高校の再編で、産業高校的になるわけで、置農の位置づけはどうなるかですが、工業と商業が一緒になるわけですよ。場所は、と

てもとても長井から通えないと。もうそれから、興譲館と米沢東も一緒になって中高一貫やると、結局置賜の秀才を全部集めたいんでしょうけども、その場合、長井高校の位置づけをどうするのかというのが、どうもその県教育委員会の考え方よく分かりませんし、どうしてもあそこに、米沢中心に全部集めたいのがもう見え見えで、したがって、南陽高校も高畠高校も非常に厳しい状況になるのかなと思っておりますので、ぜひ高校ともう少し近づければいいんですが、ちょっと私どもも、長井工業はよっぽどいろんな形で入れるんですが、長井高校も、何ていうか、例えば家庭部とか、探求科については少し反応はあるんですけども、ビジコンなんかしても、長井工業はちゃんと出してくださるんですけど、長井高校はあんまり関心がないみたい。それからAIとか、それから、私どもデジタルのほうで100万円ぐらい、民間で山形県でやって、それに寄附して、長井高校と長井工業といっても、長井高校は全く関心がなくて、だから、そういう担当の先生とか何だろうなと思んですが、もう少し、これ重要なことだと思いますので、教育委員会とも、教育長をはじめ、次長ともいろいろ相談してアドバイスをいただきながら何らかの形で関わりを深めていかないと、やはり長井から興譲館なんて名前、多分興譲館残すのかもしれませんがね、名前変えないでね、通うのは大変だろうと思っておりますので、ぜひその辺なども踏まえて検討してもらいたいと思います。

なお、市内高校が、それぞれの高校が持つ魅力や強みを中学生に伝えていくということはとても重要なことです。また、小学生に対しても、早い段階からPRしていくことや保護者へのPRという視点も必要だと思っております。これらのことについては、これまでも機会を捉えて高校側に伝えてきたところですが、今後も市としても協力しながら、市内高校に頑張ってもら

きたいと考えています。

なお、長井工業高校については、これまでの関わりをさらに発展させる形で、昨年度高校が設置した産業教育連携協議会に総合政策課、商工振興課、学校教育課が参画しております。この中で長井南中、北中の2年生の高校見学の実施、市民文化会館を会場に実施された全校課題研究発表会への長井南・北中学校全2年生の参加、文化祭での小学生及び保護者向けの体験教室などを実施しています。長井工業高校では、令和6年度も小・中学生への情報発信に積極的に取り組むこととされており、市としても支援していきます。

長井高校においても、家庭部が開発した商品を道の駅やコミュニティセンター、「くるんと」などで販売したり、文化部の活動発表を行ったりすることで、積極的に学校の特色を市民にPRしていると感じます。市としても家庭部とのコラボレーションによる活動などを進めています。

市内高校のPRに市が積極的に関わる必要があるのは、鈴木一則議員おっしゃるとおりであり、現在の様々な関わりを基に、今後も高校の魅力や高校生が生き生きと活動する姿を市民や中学生に見せていきたいと思っております。よろしくをお願いします。

○鈴木富美子議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 私には、大きく2点、市内高校の進学者の定員割れ等の改善について、そして部活動改革についていただきました。

まず、市内の高校進学者の定員割れ等のことであります。定員割れが続く市内高校の進学率向上の対策ということですが、まず、要因です。昨年度になりますかね、公立高校の募集定員の総数は、南学区、置賜学区で1,360名です。これに対して志願者数は1,005名です。既にここで355人空きが出ています。定員を超えたのが、米沢東高校が160人に対して163名、

それから米沢商業高校が80人に対して80名、あとは全て定員割れです。これらを考えれば、生徒数の減少というのが一番の原因になっていることは言わずもがなだと思います。

加えて、この後課長からも説明ありますが、私立高校の志願者が2割、本市で45名、私立高校に行きますので、公立高校について、どんどんこの定員割れが大きくなっているという一番の原因だと思います。

本市の継続的な市内の高校と長井南・北中学校の生徒同士の交流活動については、今、市長から答弁いただきましたので、これについては割愛させていただきますが、かなり意図的に仕組んでいることも確かであります。急に改善するという特効薬にはなりませんけれども、今後、特に今年度の志望状況にはちょっと期待をしているところでもあります。

さて、一方、私立の高等学校との比較であります。私立の高等学校、その学校の特色や魅力を的確に発信したり、通学に対するバス支援、学費の面での公立高校との差を少なくしているということアピールしながら自校への入学者増加に力を注いでいる、これは感じているところです。具体的に申しますと、就職や進学の実績、部活動で活躍する生徒の情報、こういったものも効果的に発信していますし、スマホのホームページでも公立学校と私立学校の間では歴然とした情報提供の差があるなということも感じているところです。

加えて、生徒が多様な進路を選択するようになって、旧来のように、まずは公立の地元高校を受験すればとか、入れれば何とかなるだろうという時代ではもうなくなっていると思います。そういうことから考えて、いかにその、取り合いになりますから、その学校の魅力を発信して、たくさんの子供に来てもらい、さらにそれで未来を開くという、そういった姿を見せる、これしかないのかなと思っております。

次、高校入試の制度が前期・後期の選抜に変わったことについてであります。これについては、前期では特色選抜、そして後期では一般選抜、中高一貫教育における連携型の入学選抜し、これを実施することになったということですが、前期選抜では調査書、個人面接、集団面接、作文発表等の検査の結果に基づいた選抜が行われるということです。これらの改革によって進路選択をする機会が増えることになると思いますので、これが受験機会が増えることになり、多くの生徒に長井高校や長井工業を選択してもらえることに期待はしております。

ただ、一方で、先ほどお話ししたように、歴然としたこの定員割れが続いておりますので、一番大きなものは機会の拡張もありますけども、その学校に入りたい、その学校で学んでみたいと、そこが一番でないかなと思います。そういう意味では、先ほど市長も話しましたが、連携の取組ありますから、これを強く発信していく必要があるなと思っております。

続いて、部活動についてお話を申し上げます。1つ目ですが、地域クラブの加入実態から、生徒の選択が増える一方で、土日の保護者の負担が増えるのではないかと、この御指摘についてはそのとおりで、その一面はあるなと思います。

今回5月の長井南・北中学校における部活動の加入状況調査ですが、部活動のみに加入している生徒が54%、地域クラブ等のみに加入している生徒が16%、両方に加入している生徒が18%になっておりますので、中学校の部活動のみに加入している生徒が土日の活動がなくなりますので、実質上、土日の活動と関係する可能性のある生徒というのは全体の約34%となるのかなと思います。そういったことから考えると、地域クラブ活動、種目によっては入会金、登録料、月謝、練習場所までの移動等々、保護者に負担のかかるものはありますけども、一方で、一切費用のかからない文化的な地域クラブ

もあることも事実です。

これらを踏まえて、今現在実証事業中ですので、結論を急がず、費用の負担、その他どのようなことに課題があるのかを見極めながら、令和8年度の本実施に向けて1年ありますので、丁寧に準備を進めていきたいと思っております。

次に、学校の部活動についての位置づけですが、今、国のほうでは、学習指導要領に示されている生徒の自主的・自発的な参加により行われる部活動、これを原則にしながら進めていこうという、原点に戻っていきましようということがあると思っております。

一方で、私も部活の顧問でしたから、その部活動の教育的な意義もあり、よく分かりますが、一方で、部活のために学校に来ているという使命感もないことはなくて、それが子供の負担感にもつながっていることもあったと、そういう子供もいるということをまず御承知おきいただきたいと思っております。

本市では、国の方向性、そして山形県の方向性を視野に入れながら、地域として、中学校だけでなく、児童の時期から中学生、そしてその先の高校、生涯を見据えたひとりスポーツや多様な文化活動への取組を奨励しながら、子供一人一人が一生涯自分のやりたいものを伸ばしていける、そんな環境整備をしたいというのが一義であります。

中学生と保護者の方々には、今回の長井市の取組、これを様々な選択肢が増えた前向きに捉えていただきながら、中学校時代、中学校のときだけでなく、長期的な視点でスポーツ、文化芸術の活動に継続して親しんでほしいというのが今の願いであります。

○鈴木富美子議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 問1の(1)でございますが、あやめ公園の再整備の整備方針についてお答え申し上げます。

先ほど市長のほうからほぼほぼお答えあった

と思いますけども、改めまして、あやめ公園の整備につきましては、議員からもありましたとおり、11年前の長井市観光振興計画をつくったときから掲げている課題でございます。当時は、既存観光資源のブラッシュアップという観点から、誘客を受ける際に、どうしてもその受皿となるレベルではないということで、耐え得る整備が必要であろうということで掲げていたところです。また、その中にあやめ会館の用途についても、時代に合わなくなってきたというようなことも掲げておりました。

かねてからこの公園の整備は課題であり、具体的にどのように整備するかというところは今まで計画が示されておりませんでしたので、計画の前に、まず構想として、2年間市民の方々に入っていただきまして、あやめ公園再整備計画基本構想を策定させていただいたところでございます。

構想の中身、少しお話ししますと、長井のアヤメであります長井古種の保存、その価値を学べる場所の提供、また花と水、緑の調和、参加型の通年公園造りという観点も盛り込まれ、市民の皆さんが花の育成を通して公園に関わる工夫も示しているところでございます。

また、あやめ会館につきましては、やはり通年型利用、通年利用の仕様に変えていかなければならないのではないかというようなことも構想の中には示されております。

いずれにしても、先人から守られてきたこのあやめ公園でございますので、長井古種を生かし、長井の心である公園を将来、後世につないでいくべきではないかというまとめをしていると思います。

どういう整備をすべきかというのは、この構想の中では、計画ではございませんので、その道しるべとして示していると認識しております。これまで具体的な整備手法について、この構想策定後に建設課と協議をしてまいりましたけど

も、その協議内容については、先ほど市長からもありましたとおり、今現在は次期都市再生整備計画事業の中に宮・小桜街区との一体的な整備というようなことができないかということで検討をさせていただいているところでございます。これまでは公園長寿命化事業の中で構想に沿って少しずつ直すということも考えてはきておりますけども、やはりまちとの一体感というのを出していきたいなと考えてるところでございます。

2つ目の質問で、(2)になりますけども、「くるんと」ができたことによってあやめ公園の整備方針も再検討すべきではないかということでございます。

あやめ公園につきましては、横町に隣接しておりまして、十日町、新町、緑町と住宅地に近い場所にある都市公園でございます。小出の都市公園と宮の都市公園ということを見ると、ある程度の公園機能は持たせたほうがいいのかなどは考えております。

アヤメの花の時期だけの専門的な公園ではなくて、通年でも親しまれる場所として期待ということについては、横町近辺の方々からも、最近住宅も増えてきていて、子供と歩いていける場所がちょうどあやめ公園がいい場所なので、そういった子供と遊べる場所にしてほしいという要望もいただいているところでございます。

「くるんと」とのすみ分けでございますけども、都市公園につきましては、皆様の家庭の庭に例えれば、まちの庭という意味合いがありますので、例えば、毎朝散歩するところというように、生活に溶け込む場所ということで「くるんと」との使い方が区別できるのではないかと考えております。「くるんと」も宮の公園も小出の公園も含めて、まちなか全体が子育てしやすいまち、住みやすいまち、住みたいまちとなる条件の一つになればと考えているところでございます。

○鈴木富美子議長 渋谷和志観光文化交流課長。

○渋谷和志観光文化交流課長 問1、(3)についてお答え申し上げます。

令和7年度からの宮・小桜街区の整備につきましては、都市再生整備計画に基づいて実施する予定としておりますが、この重要文化的景観の区域内においては、文化的景観整備活用計画に基づき、本市の文化的景観の保護を図るため、文化庁の指導をいただきながら建造物、河川、道路等の修理・修景による整備を行う必要がございます。

このうち宮区域50.1ヘクタールほどございますが、この中の重要な構成要素の主なものとしたしまして、道路では市道舟場清水町線の十日町区間、十日町通り、あと河川では新町川、建造物では旧丸大扇屋、旧西置賜郡役所、小桜館です。あと總宮神社、質上醤油店、風間書店、長沼合名会社、合資会社鍋屋本店、摂取院、岩城屋、橋梁では撞木橋、そして、町並みとしては宮の町並みを選定しております。

このたびの面的整備では、まちなかウォーカーブル推進事業で十日町通りの道路、新町川、その周辺整備を行いまして、文化的景観整備事業で旧丸大扇屋、西置賜郡役所、小桜館の整備を行う予定です。整備時期については、都市再生事業として、令和7年度から令和11年度までの5年間で順次整備することを予定しております。

このたびの宮・小桜街区の整備においては、議員から御提案いただきましたとおり、十日町、新町、横町エリアとあやめ公園につながるまち歩きルート沿いの修景や最上川舟運で育まれた宮の町並みの景観・風情を生かした面的整備に配慮して検討してまいります。

続きまして、問3の(3)文化・文化財分野についてお答えいたします。

御承知のとおり、令和3年度の組織改編において、文化及び文化財の保護における教育に関する事務を教育委員会から市長部局の観光文化

交流課に移管されたことを踏まえまして、令和6年度からの第3期の教育振興計画において、文化・文化財分野については個別計画を別途作成するとしております。

これまでの芸術文化の分野につきましては、長井市芸術文化ビジョン、これは令和2年10月策定で、計画期間が令和2年度から令和11年度までの10年間で策定してございまして、令和7年度から計画期間の後期に入りますので、長井市第六次総合計画及び第3期長井市教育基本計画の策定に合わせて見直しを図ってまいります。

また、文化財の分野につきましては、現在、長井市文化財保存活用地域計画を策定しておりますので、今後進捗状況について御報告申し上げたいと考えております。

最後に、中学校の部活動における芸術文化活動の地域移行につきましては、教育委員会の長井市スポーツ芸術文化活動環境整備推進委員会において検討しておりますので、地域の文化芸術団体と連携していけるよう、慎重に協議・推進してまいります。

○鈴木富美子議長 竹田 洋学校教育課長。

○竹田 洋学校教育課長 私のほうからは、2の(1)と3の(1)について、続けてお答えをさせていただきます。

まず、2の(1)私立高校への進学への偏重が進んでいると感じる、私立専願の生徒が増えてくるのではないかと。長井南・北中学校及び西置賜管内の中学生の市内高校の進学の動向についてということで、数字をお答え申し上げます。令和5年度中学校卒業生の進学先調査を基に申し上げます。

長井高等学校に長井南中学校から33名、長井北中学校から27名の、市内で合計60名が進学しております。長井工業高等学校には、長井南中学校から20名、長井北中学校から15名の合計35名が進学しています。

以上から、長井南・北中学校の卒業生、令和

5年度合計194名のうち95名、約49%の生徒が市内公立高等学校に進学した形になっております。

私立高校には、先ほど教育長のほうからもありましたように、45名、23.1%が進学しており、私立高校の希望者が増えているというような実態になっております。

なお、西置賜3町の状況を申し上げます。白鷹町から43名、白鷹中学校卒業生の約33%、飯豊町から6名、卒業生の約11%、小国町から7名、長井工業高校はゼロなんですけれども、長井高校のほうに7名ということで、卒業生の約13%が長井市内の公立高等学校に進学をしている実態になっております。

続きまして、3の(1)令和6年度の部活動等への加入状況結果を学校としてどう捉えたか。また、学校部活動への加入者と校外地域クラブ加入者の意識の違い、両方加入者の実態は、同一種目なのか、別々の種目かということについて、こちらのほうも数字を基に申し上げます。

さきに土屋教育長からもお答えをしたところなんですけれども、県の推進の柱としている中学校での柱ですが、希望するスポーツ、文化芸術活動を生徒が自由に選択し、一人一人が目的に応じて活動するという方向性に向けて、各中学校で取り組んでいるところです。

今年度、中学校の部活動の任意加入制になり、現在、部活動への加入率は約72%、地域団体のみに加入している生徒が約16%、そのほか、今まだ未加入であったり、地域団体にも部活動にも所属していない生徒は12%となっております。

部活動にも加入し、地域団体にも加入している約18%の生徒なんですけれども、教頭先生等に聞き取りをしたところ、部活動と同じ種目を選択している生徒さんもいますけれども、部活動と地域の団体は別のもの。例えば、吹奏楽を学校では部活選択してるけども土日は柔道をしているお子さんとか、あと、そのほか学校では一つ

この種目をやってるけれども、同じ野球をしているけれども、学校の野球のほかに、別の団体でまた地域では野球をしているというような生徒さんもおります。

加えて、現在、長井市への登録団体数は、先ほども申し上げた26団体あるんですけども、地区内の団体に所属している生徒さんも5%おりますので、これらを踏まえたところで、子供たちが希望する文化芸術活動に自由に選択が始まったというような印象を持っているところでございます。

○鈴木富美子議長 鈴木幸浩健康スポーツ課長。

○鈴木幸浩健康スポーツ課長 私のほうからは、3項目めの(3)、①スポーツ分野の個別計画の策定状況についてお答えをさせていただきます。

市民のスポーツ推進に係る計画につきましては、先ほど観光文化交流課長からの答弁にもありましたが、スポーツ分野においても、令和3年度の組織改編により教育委員会から市長部局に移管となったことから、第3期の教育振興計画とは別に個別計画として策定する予定をしております。

現在の状況でございますが、計画の策定はこれからとなります。今後、計画策定に向けて、市民の皆様から御意見を参考にさせていただくためのアンケート調査を実施し、進めてまいります。市民ひとりスポーツの推進やスポーツインクルーシブの取組、スポーツを通じた健康増進、中学校における部活動の地域移行などの視点も取り入れながら計画を策定してまいりたいと考えております。

○鈴木富美子議長 6番、鈴木一則議員。

○6番 鈴木一則議員 御答弁いただきました。

まず最初のあやめ公園等を面整備する関係では、市長そもそも私も思いが同じで、大変よかったと思います。宮・小桜街区という、今、活用計画ではどうしても重要な施設の部分だけで

すけども、両方を都市再生整備と一体にしないと、全体的な面としては見えないので、その部分は、非常にこれから長井市の観光の財産になっていくという考え方になるので、ぜひ取り組んでいただければと思います。

産業参事からは、いろいろ構想の部分のお話もいただきましたけども、白つつじ公園は、前から思ってたんですけど、セントラルパークというイメージなんですよ。どうしてもあやめ公園はそこまでじゃなくて、もっと何か心の、何かふるさとみたいな、そういうふうな部分があるので、どうしてもそこまでは私たちの気持ちとするといかないという部分があるので、これから計画づくりというようなことで協議されると思いますので、ぜひ十分な御検討をお願いしたいと思います。

最初に地域移行の関係でお話をさせていただきます。生徒たちの自由な選択という部分では、発展的に考えながらも大変いいことだと思うんですが、今回の実情を見ると、そのギャップとして、受皿の部分の対応ができてるのかという部分が非常に大きいです。

以前、地域クラブの設立の条件も、教育長も知ってらっしゃると思うんですけど、各種目とも、日本スポーツ協会の結局指導者資格を取りなさいとか様々な制約があって、これが単一に、ただ単に任意のクラブではできなくなってきているというような形があるんですね。ですので、そうすると、受皿になる場所では、指導者不足もあり、規制もあり、それから財源の確保も必要だという、ここが出てくるので、そうした場合に、個別、個人個人のクラブではなかなか将来的に対応できなくなるんじゃないかという思いがあります。

そうすると、やはり総合型クラブとかスポーツ協会と今度タイアップした形でやっていかないと、そこに行政の支援もいただきながら、受皿としてつくっていく必要があるんじゃないか

ということで、ある教育新聞見たんですけども、最終的にはそこしかないんじゃないかというコラムを上げてらっしゃる方もいまして、いろんなこと考えてもそうだなと。

東京のほうでは、都会のほうでは、プロ的にお金をしっかりもらってライセンスを持った人がそれをやるという形なんですけども、なかなか地方では、その指導者確保ってなかなか、職業としてという形はなかなか難しいと思いますので、そこら辺は今後の考えとして、教育長、どのようにお持ちなのかお伺いをしたいと思います。

○鈴木富美子議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 今、御指摘のとおりで、その課題については私たちも身にしみて感じているところです。子供のこれからの生涯スポーツという視点から言うと、やはり総合型スポーツクラブがいかにそこを機能していくかということが一つ大きなポイントになると思います。

そういう意味で、小国町のほうでは一つの成果も出しておりますので、それらも話を聞きながら、健康スポーツ課、スポーツ協会等と話をしていく必要があるかなと思います。

今、過渡期ですので、なかなか一定の方向性も見えないところはありますけども、今御指摘いただいた課題とか、そういうものを含めながら、少し整理していきながら進めていくしかない、まずはできるところから進めていくしかないかなと思っています。御指導よろしくをお願いします。

○鈴木富美子議長 6番、鈴木一則議員。

○6番 鈴木一則議員 最後に、高校の再編計画が令和7年度から多分始まると思います。市長もですけども、多分平成の22年か23年のとき、長井工業高校の環境システム科がなくなるときに、荒砥高校とのいわゆるキャンパス制で、市内の企業の方々といろんな議論をしながら、絶対これでは駄目だという話をしてやったんです

けど、あれを結局減にしたおかげで、結局今の現状があるという感じがしてるんですね。

そうすると、先ほど教育長からありましたように、定数と実際の受験志願者の差が15%あるんですよ。そうすると、そこをどうやって県教委で埋めていくかという部分はすごい至難の業で、私立の入学者の確保という一つの課題もありますから、そこら辺は大変。結局、最終的にはしわ寄せ的には公立の統合や学級減というところで、手法的には短絡的なところにまずは当面いくという感じがするんです。

そうした場合に、将来的なことを考えると、やはり西置賜、東置賜が一番減少になってるので、その部分に対して、新たに考え方、高校の考え方を取り入れて、先んじていくというよりも、もう検討といいますか、考えざるを得ないのではないかというように思いがあるんですが、この点について、最後に市長にお伺いしたいと思います。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 時間はありませんが。

まずは、西置賜の白鷹町、飯豊町、小国町と意見交換して、あと南陽市と高畠町も戦々恐々してるはずなんですよ。川西町と米沢市だけは多分一致するんでしょうけども、ですから、そこ連携して、ちょっとどうするというのをしっかりと連携、意見交換してね、その際は、我々首長だけじゃなくて、教育長とか副市長も入ってもらって、ちょっと合意を得て方向性を見いだしていくべきだなと思っておりますんで、ぜひその後は、議会も動いてほしいんですね。ただ、このまま任せとくと、米沢市、あっちに全部まとめられると。減ったところで、結局また再編だみたいなの。

私立高校は必死ですから。だから、びっくりしたのは、この間少年会議したときの、優秀だなと思った子はもうみんな東海山形、中央高校、九里って決まってたんですよ、びっくりしまし

た。大変だよこれからって言ったら、もう決まってます。そういう状況ですから、もううかうかしてられないと思います。

○鈴木富美子議長 6番、鈴木一則議員。

○6番 鈴木一則議員 学級数がないと学校の体裁も取られなくなる状況なんですよ、結局は。そうすると、地域の学校として何が残るんだという部分はあると思うんです。

ここは本当に、今、令和7年からの再編計画、ちょっと私は戦々恐々として見たいなと思うんですけども、これに対して反論もしていかないとまずいなという思いもありますので、ぜひこのところはよろしくお願ひしたいと思います。

散 会

○鈴木富美子議長 本日は、これをもって散会いたします。

再開は、明日午前10時といたします。
御協力ありがとうございました。

午後 4時11分 散会